

# 福島県

公立大学法人福島県立医科大学 放射線医学県民健康管理センター  
地域がん登録担当

鈴木 剛弘



## 後世に活かせるデータを目指して

### 1. 福島県の特徴

福島県は東北地方の最南端に位置し、県土の面積は北海道・岩手県に次いで全国3番目です。日本海型の気候の会津地方、温暖な浜通り地方、主要な交通網のある中通り地方の3地方があり、それぞれ気候・文化も違います。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、多くの貴重な命を奪い、産業・交通・生活基盤の壊滅的被害など、浜通り地方を中心に県内全域に甚大な被害をもたらしました。さらに、東京電力福島第一原子力発電所事故により、15万人の県民が県内外に避難、そのうち県外全国各地へは約5万人が避難している状況であります。震災前202万人だった人口は、H24年には、昭和53年以来33年ぶりに200万人を割り込み、平成25年11月1日現在は1,947,296人(推計人口)と減少しております。

### 2. 福島県地域がん登録の歴史

福島県の地域がん登録は、平成19年度に策定した「福島県がん対策推進計画」の取り組むべき課題として、「県は、福島県がん診療連携協議会等と連携を図り、地域がん登録を実施するための体制を整備します。」と掲載しており、これを根拠に関係機関との議論を重ね、平成22年3月より動き始めました。その後、標準データベースシステム導入に向け検討し、平成22年12月に導入時研修後登録業務を開始しました。

### 3. 登録室紹介

登録の主体は福島県で、実務は公立大学法人福島県立医科大学に委託され放射線医学県民健康管理センターの地域がん登録室で行われております。発足時は、地域がん登録責任者1名(医師)、事務担当1名(常勤)、実務担当2名(非常勤)で行われておりましたが、現在では実務担当8名(非常勤)と増員し、精度向上のため勤しんでおります。

### 4. 福島県の取り組み

福島県では、全国共通の目的以外に、震災・原発事故の影響を前後比較し検討するという目的もあるため、震災前のデータの精度を急速に高める必要性があります。

### (1) 地域がん登録事業説明会の実施

届出協力の働きかけを強化し協力医療機関を増やすべく、各地で地域がん登録事業に関する説明を行っております。説明の他、医療機関の依頼により、届出票・廻り調査票の書き方の指導やがん登録を始めるにあたっての助言等も行っております。

### (2) 出張採録の実施

震災前データの量的な精度向上を図るため、がん診療連携拠点病院以外の医療機関へ届出協力を求めましたが、古い情報を引きずり出す労力の限界もあるため協力も困難です、といった声が多く寄せられました。その労力を地域がん登録職員で担うべく出張採録が始まりました。現時点では量的精度を重要視しておりますが、データ整備後は出張採録の有り方を検討していきたいと考えております。

### 5. 最後に

まだまだ未熟な福島県地域がん登録ですが、後世に活かせるデータとなるようスタッフ一丸となって業務に取り組んでまいりたいと思います。今後とも、先輩登録室の皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

